

保健衛生部 細菌・ウイルス研究グループ 高橋 美帆

研究目的

新型コロナウイルス感染症疑いで搬入された検体のうち、陰性かつ発熱や呼吸器疾患様症状のある患者検体について呼吸器感染症ウイルスの検索を実施し、コロナ禍における県内の呼吸器ウイルスの浸潤状況を正確に把握することで、成人を含む呼吸器感染症の実態を明らかにして公衆衛生の向上に寄与することを目的とした。

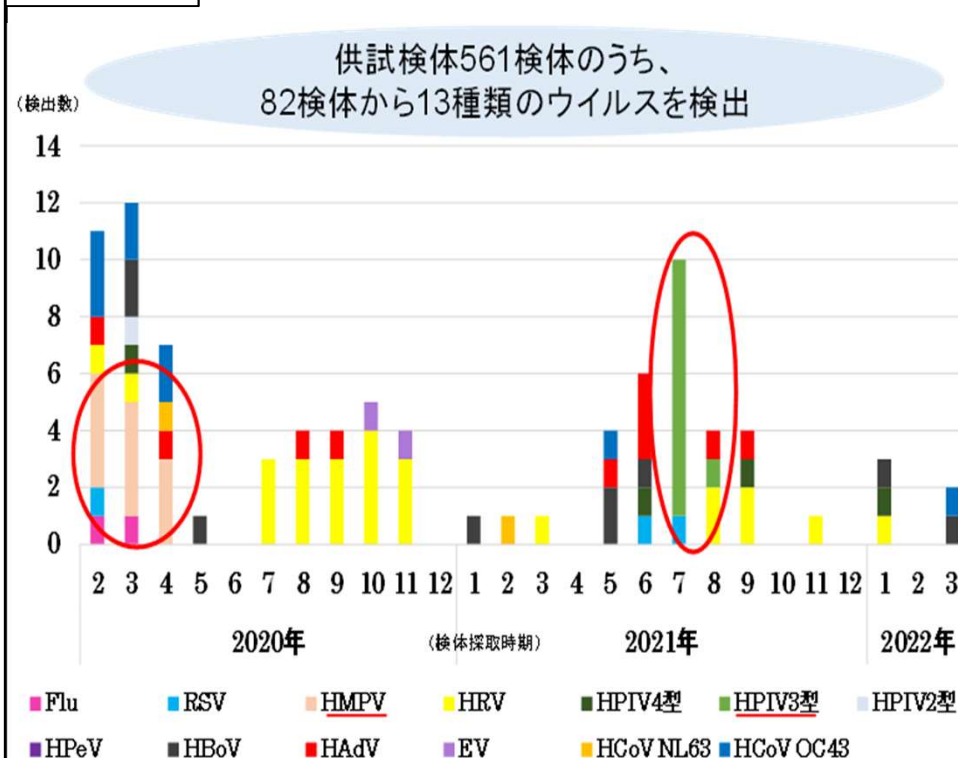
方法

対象: 2020年2月~2022年3月に当センターへ搬入された新型コロナウイルス疑い検体、561検体

検索ウイルス: FluA, B, AH1pdm, RSV, HMPV, HRV, HPIV1-4型, HPeV, HBoV, HAdV, EV, HCoV 229E/ OC43/ NL63/ HKU1

検査方法: マルチプレックスリアルタイム(RT-)PCR法

研究成果



- 2020年2-4月ごろにHMPVが多数検出され、その8割が成人検体であった。  
→30代40代の比較的若い成人においても肺炎症状を引き起こしており、成人において注視すべきウイルスの一つ。
- 2021年の6-8月ごろにかけてHPIV3型の集積がみられ、患者検体の多くは小児検体であった。  
→県内においてこども園等で集団感染が起きていた可能性がある。
- HRV、HAdV、HBoV(アルコール抵抗性のウイルス)が期間中に複数検出された。  
→新型コロナに対する徹底した予防が流行の抑制に一定の効果をもたらした。